大学入試改革

子の関心広げよう

松陽高教諭ら 松元中保護者へ説明

大学入試改革について説明する松陽高校の内園優子教頭＝鹿児島市上谷口町の松元中学校

鹿児島市の松元中学校は11月17日、地区内の松陽高校の教諭らを招き、大学入試改革についての説明会を開いた。「大学入学共通テスト」の対象となる中学2年生の保護者約60人が参加。高校側は「知識を吸収する学びだけでなく、さまざまなテーマで子どもの関心を広げる取り組みが大切」と訴えた。

松元中学校が共通テストへの保護者の理解を深めようと松陽高校に打診。同高から内園優子教頭とキャリアガイダンス部（進路指導担当）の小島健志主任が説明に訪れた。

内園教頭は「産業構造の転換や人工知能の発展など予測できない時代を生きるには、自ら課題を見つけて周囲と協力しながら解決する力が必要になる」と指摘。「求められる力が変化すると、学校教育や学力の測り方も変わる」と入試改革の背景を解説した。

小島主任は今後の入試問題について、ただ正解を選ぶだけではなく、立場が異なる考えの中で、自分はどう判断するかという点も問われると説明。「共通テスト後にある大学の個別試験では、調査書に記載される学校活動などが多面的に評価されていく」と話した。

主体的な学びを深めようと、課題研究やグループディスカッション、ディベートなどアクティブラーニングを取り入れていることも紹介。小島主任は「子どもの関心をどう伸ばしていくかについて学校と家庭で一緒に考えていければ」と呼び掛けた。

松元中学校の中山義邦校長は「今の中学生に関わることなので、保護者に対して早めに情報を伝えることが大事だと思い企画した。保護者からも好評だった」と話した。

（加藤武司）